

# 研究業績一覧

2010年10月1日現在

竹村和久

## (1) 修士論文

1. 竹村和久 1985年3月 順社会的行動における意思決定過程の分析  
情報モニタリング法を用いて 同志社大学大学院文学研究科修士論文 (文学修士)

## (2) 博士論文

1. 竹村和久 1994年9月 個人的意思決定の行動論的分析  
東京工業大学大学院 総合理工学研究科博士学位論文 (博士 (学術))

## (3) 著 書

### 単 著

1. 竹村和久 1996年2月 意思決定の心理—その過程の探究 福村出版
2. 竹村和久 2009年10月 行動意思決定論—経済行動の心理学 日本評論社

### 共 著

1. 山口裕幸・高橋潔・芳賀繁・竹村和久 2006年4月 経営とワークライフに生かそう！  
産業・組織心理学 有斐閣アルマ

### 編 著

1. 土田昭司・竹村和久 (編著) 1996年3月 感情と行動・認知・生理 誠心書房
2. 竹村和久 (編著) 2000年10月 消費行動の社会心理学 北大路書房
3. 竹村和久 (編著) 2004年9月 社会心理学の新しいかたち 誠信書房

### 分担執筆

1. 竹村和久 1987年4月 II-2 援助行動の意思決定モデル 中村陽吉・高木修 (共編)  
「他者を助ける行動」の心理学 光生館 33-45.
2. 竹村和久 1990年5月 11章 利他性と向社会的行動の発達  
荘巖舜哉・根ヶ山光一 (編) 行動の発達を科学する 福村出版 203-222.
3. 竹村和久 1990年7月 V-5 消費者行動 対人行動学研究会 (編)  
対人行動学ガイドマップ ブレーン出版 88-89.
4. 山本嘉一郎・吉村 英・竹村和久 1991年3月 パソコンSPSS 東洋経済新報社

(竹村は、度数分布、記述統計解析、探索的データ解析、クロス表分析、サブグループ別統計、相関分析、2つの平均の差の検定、プロット図による分析に関する13章から17章を担当した。)

5. 竹村和久 1992年2月 13章 人を思いやる 松井 豊(編) 対人心理学の最前線  
サイエンス社, 131-140.
6. 竹村和久 1992年7月 8章 援助行動と攻撃行動 安藤清志(編)  
社会の中の人間理解 ナカニシヤ出版, 115-129.
7. Takemura, K. 1992年10月 The influence of affect and involvement on decision making  
process. J. Misumi, B. Wilpert, & H. Motoaki (Eds.), Organizational and work  
psychology. Lawrence Erlbaum Associates. Pp. 255-256.
8. Watanabe, Y., & Takemura, K. 1992年10月 Causal inference and information  
seeking in infant's moral judgment. J. Misumi, B. Wilpert, & H. Motoaki (Eds.),  
General Psychology and Environmental Psychology. Lawrence Erlbaum  
Associates. Pp. 180.
9. 竹村和久 1993年4月 7章 情動・動機づけ 佐藤香(編)  
心理学マインド ナカニシヤ出版 131-148.
10. 竹村和久 1994年10月 11章 攻撃と援助 藤原武弘・高橋超(編)  
チャートで知る社会心理学 福村出版 Pp. 135-148.
11. 竹村和久 1996年 7章 ポジティブな感情と社会的行動  
土田昭司・竹村和久(編) 感情と行動・認知・生理 誠心書房  
Pp. 151-177.
12. 竹村和久 1996年 4章 意思決定とその支援 認知心理学講座 4巻  
東京大学出版会 Pp. 81-105.
13. 竹村和久 1997年6月 3章 消費者の問題認識と購買意思決定  
杉本徹雄(編著) 消費者理解のための心理学 福村出版 Pp. 42-55.
14. 竹村和久 1997年6月 4章 消費者の情報探索と選択肢評価  
杉本徹雄(編著) 消費者理解のための心理学 福村出版 Pp. 56-72.
15. 竹村和久 1997年7月 思考・判断と感情 海保博之(編著)  
「温かい認知」の心理学 認知と感情融接現象の不思議 金子書房  
Pp. 77-97.
16. 竹村和久 1997年12月 5章 紛争における意思決定 大淵憲一(編)、  
現代応用社会心理学講座Ⅲ ナカニシヤ出版、Pp. 97-118.
17. 竹村和久 1998年4月 1章 共感、利他性、援助行動 松井豊・浦光博(編)  
人を支える心の科学 誠心書房、Pp. 21-47.
18. 竹村和久 1999年3月 消費者の店舗利用の構造：SS利用に関する市場調査  
データの共分散構造分析 山本嘉一郎(編) 共分散構造分析 ナカニシヤ出版

Pp. 197-208.

19. 竹村和久 1999年9月 コンジョイント分析 山本嘉一郎・小野寺孝義・竹村和久(編著) S P S S x IV オプション編 東洋経済新報社 47-68.
20. 竹村和久 1999年9月 ロジスティック回帰分析 山本嘉一郎・小野寺孝義・竹村和久(編著) S P S S x IV オプション編 東洋経済新報社 24-46.
21. Takemura, K. 2000年3月 Vagueness in human judgment and decision making: Analysis of fuzzy rating data. In Z. Q. Liu, & S. Miyamoto(Eds.), Soft Computing and Human Centered Machine. Springer Verlag. 249-281.
22. 竹村和久・上笹 恒 2000年3月 19章 多変量解析 上笹恒・種田實・加藤五郎・林英夫(編) マーケティングリサーチ事典 同友館 350-390.
23. 上笹 恒・竹村和久 2000年3月 11章 2次データの収集と分析の方法、12章 定性的リサーチの方法、17章 測定の手法 18章 収集データの整理および集計 207-239、315-349.
24. 竹村和久 2000年4月 社会行動研究1-援助行動の研究 下山晴彦(編著) 臨床心理学研究の技法 福村出版 158-163.
25. Takemura, K. 2001年5月 Contingent decision making in the social world. In C. M. Allwood & S. Selart(Eds.), Decision-making: Social and creative dimensions. Kluwer Academic. Pp. 153-173.
26. Takemura, K. 2003年3月 Conclusion and recommendations In S. Murao, V. Maglambayan, E. Bugnosen(Eds.), Risk communication between mineral property developpers and local communities, London: Mining Journal Books. 85-87.
27. Fujii, S., Kikkawa, T., Takemura, K. 2004年3月 Trust and Acceptance of risk. In Arai, T. S. Yamamoto, K. Makino(Eds.), System and human science for safety, security, and dependability: Selected paper of the 1<sup>st</sup> International Symposium SSR2003, Osaka Japan, November 2003, pp. 113-122.
28. 竹村和久 2004年8月 上田隆穂・守口剛(編) 消費者心理とプロモーション 価格・プロモーション戦略 有斐閣アルマ, 59-82
29. 竹村和久 2005年11月 態度と態度変化 唐沢かおり(編著) 朝倉心理学講座 第7巻 社会心理学 朝倉書店
30. 竹村和久 2006年7月 消費者心理学 海保博之・楠見孝(監修) 心理学総合事典, 592-599
31. 吉川肇子・竹村和久・藤井聡 2006年11月 安全安心と合意形成 堀井秀之(編) 安全安心のための社会技術 東京大学出版会
32. 竹村和久 2007年12月 意思決定過程の心理学 子安増生・西村和男(編) 経済心理学のすすめ 有斐閣, 2007, 45-68.
33. 竹村和久 2009年4月 社会的行動 西本 武彦・福澤 一吉・越川 房子・大藪

泰（編）テキスト現代心理学入門 川島書店

### 分担翻訳

1. カイザー 高木修・神山進監訳 1994年12月 被服と身体装飾の社会心理学  
装いのこころを科学する  
(Kaiser, S. B. 1985 The social psychology of clothing and personal adornment.  
McMillan) 11章の翻訳を担当（下巻 P p. 177-217.）
2. イザード 荘巖舜哉監訳 1996年9月 感情心理学 ナカニシヤ出版  
(Izard, C. E. 1991 Psychology of emotions. New York: Plenum Press.)  
8章および9章の翻訳を担当 (Pp. 210-234.)

### 辞典・ハンドブック

1. 古畑和孝（編） 1994年10月 社会心理学小辞典 有斐閣  
個性化、匿名性、脱個人化の項目を担当
2. 日本ファジィ学会（編）2000年9月 ファジィとソフトコンピューティングハ  
ンドブック 共立出版 （心理および評価の章の分担執筆）
3. 日本認知科学会（編） 2002年9月 認知科学辞典 共立出版  
意思決定規則、選択方式、E B Aモデル、プロスペクト理論、優越、  
優越原理の項目を担当
4. 日本社会心理学会（編） 2009年6月 社会心理学事典  
態度、ナレッジマネジメント担当
5. 日本産業組織心理学会（編） 2009年6月 産業組織心理学ハンドブック  
行動経済学と消費者心理を担当
6. 海保博之（監修）松原望・竹村和久・北村英哉・住吉チカ（編）2010年4月 思考と感  
情の科学事典 朝倉書店
7. 松原望（監修）美添泰人・岩崎学・林文・金明哲・山岡和枝・竹村和久（編）印刷  
中 統計応用事典 丸善

### （4）論文

#### 審査付き学術論文

1. 竹村和久・高木 修 1985年10月 順社会的行動の意思決定過程の分析  
社会心理学研究（日本社会心理学会）、第1巻、第1号、35-44.
2. 竹村和久・高木 修 1987年 2月 意思決定過程における情報探索ストラテ  
ジーと内的状態：提供行動の場合 実験社会心理学研究（日本グループ・ダイナミ

- ックス学会)、第26巻第2号、105-114.
3. 竹村和久・高木 修 1987年 3月 向社会的行動の動機と内的・外的統制志向性 教育心理学研究(日本教育心理学会)、第35巻第1号、26-32.
  4. 竹村和久・高木 修 1987年 8月 順社会的行動の意思決定過程における認知の変化 心理学研究(日本心理学会)、第58巻第3号、144-150.
  5. 竹村和久・高木 修 1987年 8月 援助行動および非援助行動における原因帰属の次元 実験社会心理学研究(日本グループ・ダイナミックス学会)、第27巻第1号、15-25.
  6. Takemura, K. 1988年 1月 Preference patterns of decision strategies. Behaviormetrika, No. 23, 69-84.
  7. 竹村和久・高木 修 1988年 2月 順社会的行動の意思決定モデルの検討 実験社会心理学研究(日本グループ・ダイナミックス学会)、第27巻第2号、171-180.
  8. 竹村和久・高木 修 1988年 5月 ”いじめ”現象に関わる心理的要因 逸脱者に対する否定的態度と多数派に対する同調傾性 教育心理学研究(日本教育心理学会)、第36巻第1号、57-62.
  9. 竹村和久 1988年 6月 決定方略の選好パターンによる消費者分類の試み 広告科学(日本広告学会)、第17集、75-80.
  10. 竹村和久 1988年 6月 決定方略が意思決定過程に及ぼす効果ー消費者行動の場合 心理学研究(日本心理学会)、第59巻第2号、83-90.
  11. 竹村和久 1989年 9月 消費者の感情ならびに関与が選択過程における評価次元に及ぼす効果 広告科学(日本広告学会)、第18集、69-74.
  12. 竹村和久 1990年 7月 プロトコール・データの時系列的分析法 長期的購買意思決定過程研究への適用 広告科学(日本広告学会)、第21集、95-100.
  13. 竹村和久・高木 修 1990年 11月 対人感情が援助行動および非援助行動の原因帰属に及ぼす影響 実験社会心理学研究(日本グループ・ダイナミックス学会)、第30巻、133-138.
  14. 竹村和久・渡辺弥生 1991年 6月 6歳児の道徳判断における情報探索と因果推論 教育心理学研究(日本教育心理学会)、第39巻第2号、186-194.
  15. Takemura, K. 1992年 6月 Effect of framing on post-decisional regret in interpersonal and non-interpersonal situations. Psychological Reports, 70, 1027-1030.
  16. 竹村和久 1992年 7月 ファジィ評定による広告効果測定について 広告科学(日本広告学会)、第25集、65-70.
  17. Takemura, K. 1992年 9月 Effect of decision time on framing of decision: A case

- of risky choice behavior. *Psychologia*, 35, 180-185.
18. 竹村和久 1992 年 12 月 ファジィ多属性態度モデルによる購買目的地選択の分析について エリア・マーケティングのための消費者心理測定の提案 地域学研究 (日本地域学会)、22, 119-132.
  19. Makino, K., & Takemura, K. 1993 年 1 月 Japanese concessional behaviors as interpersonal interaction. *Psychological Reports*, 72, 103-109.
  20. 竹村和久 1993 年 7 月 ファジィ多属性態度モデルによる店舗選択の分析 広告科学 (日本広告学会)、第 27 集、89-93.
  21. 永野光朗・佐々木土師二・林英夫・高木修・西道実・竹村和久 1993 年 7 月 店舗内消費者行動に関する心理学的研究 広告科学 (日本広告学会)、第 27 集、95-99.
  22. Takemura, K. 1993 年 8 月 The effect of decision frame and decision justification on risky choice. *Japanese Psychological Research*, 35, 36-40.
  23. Takemura, K. 1993 年 9 月 Protocol analysis of multistage decision strategies. *Perceptual and Motor Skills*, 77, 459-469.
  24. Takemura, K. 1993 年 10 月 The effect of interpersonal sentiments on behavioral intention of helping behavior among Japanese students. *The Journal of Social Psychology* 133, 675-681.
  25. Takemura, K. 1994 年 1 月 An analysis of information search pattern in the game of twenty questions. *Perceptual and Motor Skills*, 78, 371-377.
  26. Takemura, K. 1994 年 1 月 Influence of elaboration on the framing of decision. *The Journal of Psychology*, 128, 33-39.
  27. 竹村和久 1994 年 3 月 リスク判断における選択課題とマッチング課題の矛盾 日本リスク研究学会誌 (日本リスク研究学会)、5(2), 88-95.
  28. Makino, K., & Takemura, K. 1994 年 4 月 Cognitive structure of Japanese concessional behaviors *Psychological Reports*, 74, 771-778.
  29. Takemura, K. 1994 年 4 月 Personal involvement, task complexity, and the decision making process: An information search analysis. *Japanese Psychological Research*, 36, 41-48.
  30. 秋山学・竹村和久 1994 年 7 月 不快感情と関与が意思決定過程に及ぼす影響 実験社会心理学研究 (日本グループ・ダイナミックス学会)、第 34 巻、58-68.
  31. 竹村和久 1994 年 7 月 ハイパーメディアを利用した情報検索システムの心理効果の分析—エイズに関する公共広告を用いて 広告科学 (日本広告学会)、第 29 集、43-49.
  32. 竹村和久 1994 年 5 月 フレーミング効果の理論的説明 リスク下における意思決定の状況依存的焦点モデル 心理学評論、第 37 巻 3 号、270-291.

33. 竹村和久 1996年9月 広告効果の状況依存性とその数理的表現—  
状況依存的焦点モデルに基づく考察 広告科学(日本広告学会)、第33集、149-153.
34. 清水裕・水田恵三・秋山学・浦光博・竹村和久・西川正之・松井豊・宮戸美樹  
1997年9月 阪神・淡路大震災の避難所リーダーの研究 社会心理学研究、  
13, 1-12.
35. Matsuda, N., Shinoda, N., & Takemura, K. 1997年11月 The procedural effects on  
the public perception of automotive risks measured in triple-values, Japanese  
Journal of Risk Analysis (日本リスク研究学会), 8(2), 135-147.
36. 竹村和久 1998年8月 ファジィ重回帰分析による広告コミュニケーション効果  
の研究 広告科学(日本広告学会)、第37集、119-124.
37. 竹村和久 1998年12月 状況依存的意識決定の定性的モデル：心的モノサシ 理論  
による説明 認知科学, 第5巻(4), 17-34.
38. Takemura, K. 1999年2月 A fuzzy linear regression analysis for fuzzy input-  
output data using the least square method and its application to psychological  
study. Journal of Advanced Computational Intelligence, 3(1), 36-41.
39. 竹村和久 1999年9月 広告コミュニケーション効果の状況依存性とその説明  
広告科学(日本広告学会), 第39集、163-169.
40. Smithson, M., Bartos, T., & Takemura, K. 2000年3月 Human Judgment under sample  
space ignorance. Risk Decision and Policy, 5, 35-150.
41. 若山大樹・竹村和久 2001年12月 ファジィ入出力データの可能性線形回帰分析に  
おける影響の大きいデータの検出法とその応用 日本ファジィ学会誌, 13巻,  
652-661.
42. 藤井聡・竹村和久 2001年12月 リスク態度と注意—状況依存焦点モデルによる  
フレーミング効果の計量分析 行動計量学, 54, 9-17.
43. 藤井聡・竹村和久・吉川肇子 2002年7月 「決め方」と合意形成：社会的ジレン  
マにおける利己的動機の抑制にむけて 土木学会論文集, No. 709, 13-26.
44. 若山大樹・竹村和久 2002年5月 態度と社会的規範の曖昧性を考慮した消費者の  
行動意図予測 感性工学研究論文集 2(1), 65-72.
45. Dekay, M. L., Small, M. j., Fischbech, P. S., Farrow, R. S., Cullen, A., Kadane, J. B.,  
Lave, L. B. Morgan, M. G., & Takemura, K. 2002年11月 Risk-based decision analysis  
in support of Precautionary policies. Journal of Risk Research, 5(4), 391-417.
46. 吉川肇子, 村尾智, 竹村和久 2003年11月 スモールスケールマイニングによる  
労働安全と環境問題：フィリピンイトゴン地区を対象とした調査 地域安全学会  
論文集, No. 5, 61-70.
47. 吉川肇子, 白戸智, 藤井聡, 竹村和久 2003年11月 技術的安全と社会的安心  
社会技術研究論文集, No. 1, 1-8.

48. 藤井 聡, 竹村和久, 吉川肇子 2003年11月 竹村和久リスク管理者に対する信頼と監視— 炉シュラウド問題が住民意識に及ぼした影響分析— 社会技術研究論文集, No. 1, 123-132.
49. Kashima, Y. Kashima, E., Gelfand, M. Goto, S. Takata, T., Takemura, K., Zhang, Z. 2003 War and Peace in East Asia: Sino-Japanese Relations and National Stereotypes. *Peace and Conflict: Journal of Peace psychology*, 9(3), 259-276.
50. 竹村和久・若山大樹・堀内圭子 2004年8月 消費者の広告受容の数理心理モデルとデータ解析法の開発—消費者の判断と意思決定の心理実験と調査研究を通じて— 広告科学, 45,153-172.
51. 竹村和久・吉川肇子・藤井 聡 2004年10月 不確実性の分類とリスク評価 社会技術研究論文集, 2 ,12-20.
52. 藤井 聡・吉川肇子・竹村和久 2004年10月 東電シュラウド問題にみる原子力管理への信頼の変化 社会技術研究論文集, 2, 406-413.
53. Takemura,K., Takasaki,I.&Iwamitsu,Y. 2005年9月 Statistical image analysis of psychological projective drawings. *Journal of Advanced Intelligent Computing and Intelligent Informatics*, 9(5), 453-460.
54. Takemura,K. 2005年9月 Fuzzy least squares regression analysis for social judgment study. *Journal of Advanced Intelligent Computing and Intelligent Informatics*, 9(5), 461-466.
55. 高崎いゆき・竹村和久・岩満優美 2005年11月 描画から「心理」を解釈する 感性工学研究論文集, 5(3), 155-164.
56. 井出野尚・竹村和久 2005年11月 潜在的連想テストによるリスク認知へのアプローチ 感性工学研究論文集, 5(3), 149-154.
57. Fan,L.& Takemura,K. 2005年9月 Fitting a psychometric function to price judgments: An analysis of consumers' judgments for discounted prices, *Perceptual and Motor Skills*, 101, 225-228.
58. 竹村和久 2006年3月 リスク社会における判断と意思決定 *認知科学*, 13(1), 17-31.
59. Selart,M., Kuvaas,B., Boe,O. ,& Takemura.K. 2006年5月 The influence of decision heuristics and overconfidence on multiattribute choice: A process-tracing study,. *European Journal of Cognitive Psychology*,18(3), 437-453.
60. 井出野尚・竹村和久 2007年5月 潜在的連想テストを用いたリスク・マップの作成 日本感性工学会研究論文集, 2007, 7(1), 101-110.
61. 諸上詩帆・岩間徳兼・大久保重孝・竹村和久 2007年2月 時間的制約が消費者の購買意思決定課題に及ぼす影響 - 眼球運動測定装置を用いて - 日本感性工学会研究論文集 2007, 7(2), 275-282.
62. Takemura,K. 2007年5月 Ambiguous comparative judgment: Fuzzy set model and data analysis. *Japanese Psychological Research*, 2007, 49(2), 148-156.
63. Takemura,K. & Selart,M. 2007年12月 Decision making with information search constraints: A process tracing study. *Behaviormetrika*, 2007, 34(2), 111-130.



64. Ando N, Saito Y, Takemura K, Takada F, Iwamitsu Y. 2008年5月 Knowledge and impressions regarding the concept of mutation among Japanese university students. *Clinical Genetics* 74: 75–81, 2008.
65. 岩満優美・安田裕恵・神谷美智子・和田芽衣・中島香澄・安藤記子・岡崎賀美・竹村和久 2008年11月 日本語版 Life Experiences Survey 作成と妥当性・信頼性の検討 ストレス科学, 23(3), 239–249, 2008.
66. Selart, M. Nordstrom, T., Kuvaas, B., Takemura, K. 2008年8月 Effects of Reward on Self-regulation, Intrinsic Motivation and Creativity. *Scandinavian Journal of Educational Research*, 2008, 52, 439-458.
67. 磯部綾美・久富哲兵・松井豊・宇井美代子・高橋尚也・大庭剛司・竹村和久 2008年10月 意思決定における“日本版後悔・追求者尺度”作成の試み, *心理学研究*, 179, 453-458.
68. Takahashi, H., Ideno, T., Okubo, S., Matsui, H., Takemura, K., Matsuura, M., Kato, M., Okubo, Y. 2009年4月 Impact of changing the Japanese term for “schizophrenia” for reasons of stereotypical beliefs of schizophrenia in Japanese youth . *Schizophrenia Research* July 2009 (Vol. 112, Issue 1), 149-152.
69. 羽鳥剛史・黒岩武志・藤井聡・竹村和久 2009年10月 道徳性発達理論に基づく土木技術者倫理に関する実証的研究-倫理規定の解釈可能性が土木技術者の倫理性に及ぼす影響-土木学会論文集 D, 65(3), 262-279.
70. 佐藤菜生・高崎いゆき・吉川肇子・村尾智・竹村和久 2009年10月 鉱物資源乱掘に従事する労働者のリスク認知—描画法を用いた事例研究—リスク研究学会誌 19, 33-41.
71. 大久保重孝・井出野尚・竹村和久 2010年8月 多属性意思決定過程における背景情報の効果について-情報モニタリング法を用いて 日本感性工学会論文誌, 9(4), 226-231.
72. 若山大樹・井出野尚・竹村和久 2010年8月 社会的事象と知覚課題の曖昧な判断に関する心理学的研究, 知能と情報 (日本知能情報ファジィ学会), 22(4), 443-449.
73. Takahashi, H., Matsui, H., Camerer, C., Takano, H., Kodaka, F., Ideno, T., Okubo, O., Takemura, K., Arakawa, R., Eguchi, Y., Murai, T., Okubo, Y., Kato, M., Ito, H., and Suhara, (in press) Dopamine D1 receptors and nonlinear probability weighting in risky choice. *Journal of Neuroscience*, 2010(in press)

## 2. その他の学術論文

1. 高木 修・竹村和久 1984年12月 援助動機と非援助動機の関連性について 関西大学社会学部紀要、第16巻、第1号、51-65.
2. 竹村和久 1984年7月 動機的側面からみた順社会的行動の諸相 同志社心理、第31号、36-44.
3. 竹村和久 1986年6月 意思決定ストラテジー実行におけるメタ認知過程モデ

- ル 同志社心理、第 32 号、16-22.
4. 竹村和久 1986 年 6 月 意思決定過程の分析：シミュレーションによる意思決定ストラテジーの心理的機能の検討 吉田秀雄記念事業財団助成研究集、第 19 号、213-226.
  5. 竹村和久 1986 年 5 月 援助行動の意思決定過程に及ぼす集団の大きさの影響：傍観者効果の生起モデルについて 同志社心理、第 33 号、48-56.
  6. 竹村和久 1987 年 5 月 決定方略のプロトコール分析 同志社心理、第 34 号、21-28.
  7. 竹村和久 1988 年 6 月 感情、関与、決定フレーミングが消費者の意思決定過程に及ぼす効果 吉田秀雄記念事業財団助成研究集、第 21 号、187-199.
  8. 竹村和久 1988 年 10 月 異性交際相手の選択過程 野外実験における情報探索パターンの検討 対人行動学研究 (対人行動学研究会)、第 7 巻、11-16.
  9. 竹村和久 1988 年 6 月 道徳判断過程における情報統合方略の分析 同志社心理、第 35 号、54-60.
  10. 竹村和久 1989 年 12 月 肯定的感情が社会的行動における情報処理に及ぼす影響について 光華女子短期大学研究紀要、第 27 集、23-38.
  11. 竹村和久 1990 年 12 月 態度概念の再検討 光華女子短期大学研究紀要、第 28 集、119-132.
  12. 竹村和久 1991 年 9 月 献血・提供行動と愛他性 現代のエスプリ 291 号 至文堂 86-97.
  13. 竹村和久 1991 年 12 月 判断の曖昧さを考慮した社会的情報統合過程のモデル ファジィ集合論を用いて 光華女子短期大学紀要 第 29 集、91-107.
  14. 山本嘉一郎・荒木実・吉村英・竹村和久・森際孝司 1991 年 12 月 文科系女子への情報教育(その 2)教育支援システムとしてのコンピュータネットワーク 光華女子短期大学紀要 第 29 集、33-71.
  15. Takemura, K. 1992 年 8 月 Vagueness in judgment process: An application of a fuzzy rating method to the social judgment study. International Journal of Psychology, 27(3/4)、P. 178.
  16. Makino, K. & Takemura, K. 1992 年 8 月 Cognitive structure of "Yuzuriai" (the Japanese behavior of giving concessions to others) International Journal of Psychology, 27(3/4)、P. 311.
  17. 竹村和久・山本嘉一郎・荒木実・相場浩和・森際孝司 1993 年 1 月 大学選好のコンジョイント分析 光華女子短期大学紀要 第 30 集、73-82.
  18. 竹村和久 1993 年 2 月 ファジィ理論に基づく広告効果の心理測定 日経広告研究所報 147 号、59-67.
  19. 秋山学・竹村和久 1994 年 3 月 不快感情と関与が意思決定過程における情報探索パターンに及ぼす影響 対人行動学研究会心理学研究(対人行動学研究会)、第 12 巻、

- 11-22.
20. 竹村和久 1994年3月 感情と消費者行動 ポジティブな感情の効果に関する展望  
消費者行動研究第1巻第2号、13-28.
  21. 竹村和久 1994年9月 社会問題の社会心理学についてのコメント ミクロ・マクロ  
問題と認知の共有性の問題 心理学評論、第36巻、514-531.
  22. 竹村和久 1995年5月 小橋論文へのコメント 心理学評論、第37巻3号、245-246.
  23. 竹村和久 1998年7月 消費者の判断のモノサシ：購買意思決定の心的モデル 繊維  
製品消費科学（日本繊維製品消費科学会）、第39巻(7)、426-431.
  24. Takemura, K. 1998年11月 A mental model of creative process in naturalistic  
Decision-making: Its qualitative and mathematical representations. Discussion  
Paper, Institute of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba, No. 800.
  25. Takemura, K. & Selart, M. 1999年6月 Decision making with information  
Constraints: An analysis of information search pattern and perceived inner states.  
Discussion Paper, Institute of Policy and Planning Sciences, University of  
Tsukuba, No. 825.
  26. Selart, M., Boe, O., & Takemura, K. 2000年3月 Perspectives on information  
acquisition: Rethinking its role in the construction of reason-based preferences.  
Goteborg Psychological Reports, 2000, 30, No. 2.
  27. Selart, M., Boe, O., & Takemura, K. 2000年12月 How do decision heuristics and  
social value orientation influence the building of preferences ?Goteborg  
Psychological Reports, 2000, 30, No. 6.
  28. Takemura, K. 2004年9月 Ambiguous comparative judgment : Fuzzy set model and data  
analysis. The Proceedings of the Second International Symposium on Soft Computing and  
Intelligent System. TUA3-4, 1-6.
  29. Takemura, K. 2004年9月 Fuzzy logistic regression analysis for fuzzy input-output data. The  
Proceedings of the Second International Symposium on Soft Computing and Intelligent  
System. WE8-5, 1-6. .
  30. Wakayama, D., & Takemura, K. 2004年9月 Fuzzy Purchase Intention Model: An Extension  
of Fishbein and Ajzen Model The Proceedings of the Second International Symposium on  
Soft Computing and Intelligent System. WE8-4.
  31. 竹村和久 2005年12月 意思決定現象と行動意思決定論 知能と情報（日本知能情  
報ファジィ学会誌）, 17(6), 4-12.
  32. Takemura, K., Takakai, Y., Ono, K. & Ochiai, A. 2006年9月 Fuzzy least squares  
conjoint analysis and its application to Consumer decision research. The Proceedings of  
the 3rd International Symposium on Soft Computing and Intelligent System. FR19, 1-6.
  33. 竹村和久・大久保重孝・諸上詩帆 2007年8月 シリーズ「心理学研究の最前線」消  
費者心理学の最前線(第1回) - 過程追跡法による消費者の意思決定過程の分析 -, 繊維

製品消費科学,48(8),506-513.

34. 大久保重孝・井出野尚・竹村和久 2007年9月 シリーズ「心理学研究の最前線」消費者心理学の最前線(第2回) - 消費者行動における潜在的認知測定 - 潜在的連想テスト(Implicit Association Test:IAT)の適用可能性について, 繊維製品消費者科学,48(9),578-584.
35. 竹村和久・高崎いゆき・佐藤菜生 2007年10月 シリーズ「心理学研究の最前線」消費者心理学の最前線(第3回) - 描画による消費者心理の分析 -, 繊維製品消費者科学,48(10),638-644.
36. 竹村和久・玉利祐樹 2007年12月 シリーズ「心理学研究の最前線」消費者心理学の最前線(第4回) - 言語プロトコル解析による消費者心理の把握 -, 繊維製品消費者科学,48(12),828-836.
37. 竹村和久・井出野尚・大久保重孝・松井博史 2008年2月 神経経済学と前頭葉, 分子精神医学, 2009, 8(2), 35-40.
38. 竹村和久 2009年4月 意思決定と神経経済学 臨床精神医学 38(1), 35-42.
39. 竹村和久 2009年10月 消費者の意思決定過程, 基礎心理学研究, 24, 147-155.
40. 竹村和久 2009年11月 ニューロマーケティングの可能性 流通情報 Vol.41 No.4, 37-45.
41. 安藤記子・岩満優美・竹村和久・齊藤有紀子・高田史男 2009年11月 認定遺伝カウンセラーの現状と今後 - 研究職の立場から - 日本遺伝カウンセリング学会誌 30, 115-118.
42. 竹村和久・大久保重孝, 曖昧性と意思決定, 知能と情報, 2010年8月 知能と情報(日本知能情報ファジィ学会), 22(4), 419-426.

### 3. 商業紙での論文, 解説など

1. 竹村和久 2004年2月 フレーミング効果について 経済セミナー, No. 590, 21-25
2. 竹村和久 2004年9月から2005年8月 行動的決定理論入門1 ~ 12 経済セミナー
3. 竹村和久 2009年7月 社会心理学の観点からみた消費者行動と意思決定の満足化 (財) 建築保全センター (編集) 季刊 RE No. 163.

### (5) その他

#### 国際会議発表論文

1. Takemura, K. 1997年10月 A simple linear regression analysis for fuzzy input-output data and its application to psychological study. Proceedings of the 1997 IEEE

International Conference on Intelligent Processing Systems(IEEE), Vol. 1, 49-53.

2. Takemura, K. Takasaki, I., Sato, N., Kinoshita, M., Iwamitsu, Y., Ideno, T. & Yoshida, K. (2008). Image analysis of projective drawings for? mental patients and students Proceeding of the Second International Workshop on Kansei, pp.94-97.

学会発表 (国際学会発表のみ収録した。日本国内学会、外国および国内での研究セミナー等での発表は省略した。)

1. Takemura, K. 1988年8月 Involvement and decision making process: An information search analysis of choosing a date partner. XXIV International Congress of Psychology, Sydney, Australia.
2. Watanabe, K. & Takemura, K. 1990年7月 Information seeking and causal inference in infant's moral judgement. XXII International Congress of Applied Psychology, Kyoto, Japan.
3. Takemura, K. 1990年7月 The influence of affect and Involvement on decision making process. XXII International Congress of Applied Psychology, Kyoto, Japan.
4. Takemura, K. 1992年7月 Vagueness in judgment process: An application of a fuzzy rating method to the social judgment study. XXV International Congress of Psychology, Brussels, Belgium.
5. Makino, K. & Takemura, K. 1992年7月 Cognitive structure of "Yuzuriai" (the Japanese behavior of giving concessions to others) XXV International Congress of Psychology, Brussels, Belgium.
6. Takemura, K. 1994年7月 Elaboration and framing of decision. XXIII International Congress of Applied Psychology, Madrid, Spain.
7. Takemura, K. 1995年12月 Mathematical explanation of the framing effect: The contingent focus model. Annual Meeting of Society for Risk Analysis and the Japan Section of SRA, Honolulu, USA.
8. Takemura, K. 1996年8月 Contingent focus model of decision making under risk. XXVI International Congress of Psychology, Montreal, Canada.
9. Hiragushi, M., & Takemura, K. 1996年8月 Psychological satisfaction for customer services. XXVI International Congress of Psychology, Montreal, Canada.
10. Takemura, K. 1997年10月 A simple linear regression analysis for fuzzy

- input-output data and its application to psychological study. IEEE International Conference on Intelligent Processing Systems Beijing, China.
11. Takemura, K., & Antonides, G. 1998年8月 Framing effect in the ultimatum bargaining games. Symposium on Economic Psychology, XXIV International Congress of Applied Psychology, San Francisco, USA.
  12. Smithson, M., Bartos, T., & Takemura, K. 1999年6月 Human Judgment under sample space ignorance. International Symposium on Imprecise Probabilities and Their Applications, Ghent, Belgium.
  13. Takemura, K., & Fujii, S. 1999年8月 Contingent focus model of decision framing under risk. 17th Biennial Conference on Subjective Probability, Utility, and Decision Making, Mannheim, Germany.
  14. Fujii, S., & Takemura, K. 2000年7月 Risk attitude and attention. XXV International Congress of Psychology, Stockholm, Sweden.
  15. Takemura, K. 2000年7月 On the value function: Fundamental derivation from Mental Ruler Theory. XXV International Congress of Psychology, Stockholm, Sweden.
  16. Takemura, K. 2000年11月 Mental ruler theory of contingent decision making: Mathematical representation and some empirical findings. Annual Meeting of Society for Judgment and Decision Making. New Orleans, USA.
  17. Fun, L. & Takemura, K. 2001年7月 Experimental Studies on Price judgment across different frame conditions. Paper presented at the International Meeting of the Psychometric Society(IMPS 2001), Osaka, Japan.
  18. Fujii, S., & Takemura, K. 2001年7月 Psychometric Meta-analysis of framing effect by contingent focus model. Paper presented at the International Meeting of the Psychometric Society(IMPS 2001), Osaka, Japan.
  19. Wakayama, D., & Takemura, K. 2001年7月 A detection method of influential observations and outliers in possibilistic linear regression analysis for fuzzy input-output data and its application. Paper presented at the International Meeting of the Psychometric Society(IMPS 2001), Osaka, Japan.
  20. Takemura, K. 2001年7月 Psychophysical law reconsidered: Statistical analysis of judgment data. Paper presented at the International Meeting of the Psychometric Society(IMPS 2001), Osaka, Japan.
  21. Takemura, K. & Fujii, S. 2001年8月 Focus on the outcome determines risk attitude: Contingent focus model for decision framing. Paper presented at the 18th Research Conference on Subjective Probability, Utility and Decision Making, Amsterdam, the Netherlands.
  22. Takemura, K. 2002年9月 Fuzzy regression analysis of social judgment. Paper

- presented at International Conference on Soft Computing, Tsukuba, Japan.
23. Takemura, K. & Fujii, S. 2002年11月 Context effect in category judgment: Mental box model and its finding, Paper presented at Judgment and Decision Making Society, Kansas-City, MO, USA
  24. Fujii, S. & Takemura, K. & Fujii, S. 2002年11月 Fechner Law and random utility hypothesis leads the matching law. Paper presented at Judgment and Decision Making Society, Kansas-City, MO, USA
  25. Takemura, K., Fujii, S., Kikkawa, K. & Horii, H. 2003年11月 Risk perception, trust, and policy preference: A lesson from nuclear power plant trouble in Japan Society for Judgment and Decision Making, at Vancouver, Canada.
  26. Fujii, S. & Takemura, K. 2003年11月 Attention, frames condition and decision frames condition and decision making under risk: An empirical contingent focus model using eye gaze recorder. Society for Judgment and Decision Making, at Vancouver, Canada.
  27. Takemura, K., Taniguchi, T., Tsuchiya, T., & Kosugi, M. 2003年12月 Risk perception and social value orientation: From questionnaire survey for design of risk communication activities in Tokai Society for Risk Analysis, Baltimore, USA.
  28. Takemura, K. 2004年8月 Probability weighting function derived from the mental ruler model. International Congress of Psychology, Beijing, China.
  29. Takemura, K. & Fujii, S. 2004年9月 Interpretation of matching law: From the Assumptions of Luce Choice Axiom, Fechner Law, and Random Utility Maximization European Mathematical Psychology Meeting, Ghent, Belgium.
  30. Takemura, K., Taniguchi, T., Tsuchiya, T., & Kosugi, M. 2004年11月 Risk perception, trust, and social value orientation: Model and empirical research, Society for Risk Analysis, Europa, Paris, France.
  31. Takemura, S., Morokami, S., Ohkubo, S., & Fujii, S. 2005年8月 Influence of positive affect on eye movement patterns in decision making. Subjective Probability, Utility, and Decision Making Conference, Stockholm, Sweden.
  32. Takemura, K., Takasaki, I., & Iwamitsu, Y. 2006年7月 .Statistical Image Analysis of Psychological Projective Drawings, Paper presented at the 26th International Congress of Applied Psychology, Athens, Greece.
  33. Takemura, K., Takasaki, I., Satoh, N., Kinoshita, M., Yoshida, K., Iwamitsu, Y. 2007年7月 Statistical Image Analysis of Psychological Projective Drawings. Paper presented at the International Meeting of the Psychometric Society (IMPS-2007), Tokyo, Japan.

34. Takemura, K., Ochiai, A., Takakai, Y., & Ono, K.. 2007年7月 Fuzzy least squares conjoint analysis and its application to Consumer decision research. Paper presented at the International Meeting of the Psychometric Society (IMPS-2007), Tokyo, Japan.
35. Takemura, K., Takasaki, I., Matsumura, O., Iwamitsu, Y., Ideno, T., and Yoshida, K. 2010年7月, New analysis method for projective drawings: Texture analysis, singular value decomposition, and Fourier analysis. Paper presented at the International Conference of Applied Psychology, Melbourne, Australia.

#### 国内学会発表(2009年度以前)

1. 高崎いゆき, 佐藤菜生, 玉利祐樹, 蔵琢也, ユーリ・ガタノフ, 高橋英彦, 岩満優美, 竹村和久 描画による典型的な人物イメージの検討—日本人, ロシア人, 大学生の描画を用いて— 第10回日本感性工学会大会, 第10回日本感性工学会大会予稿集 2008 (CD-ROM), 21A-10. pdf, 2008.

#### 国内学会発表(2009年度)

1. 井出野尚, 玉利祐樹, 大久保重孝, 高橋英彦, 竹村和久 温まると優しくなるか?—生理指標を用いた実験方法の提案— 第11回日本感性工学会大会, 第11回日本感性工学会大会予稿集 (CD-ROM), 3G2-6\_J11-090629-38. pdf, 2009.
2. 高崎いゆき, 松村治, ユーリ・ガタノフ, 大熊希和子, 高橋英彦, 竹村和久 描画による精神疾患患者の人物イメージの検討—日本人, ロシア人およびスウェーデン人, 大学生の描画を用いて— 第11回日本感性工学会大会, 第11回日本感性工学会大会予稿集 (CD-ROM), 1G2-4\_J11-090629-29. pdf, 2009.
3. 竹村和久, 井出野尚, 大久保重孝, 小高文聰, 高橋英彦 消費者の選好に関する神経経済学的研究—認知反応と脳画像解析—第39回消費者行動研究コンファレンス報告要旨集, 33-36, 2009.
4. 玉利祐樹, 大久保重孝, 井出野尚, 高橋英彦, 竹村和久 生理指標を用いた精神疾患に対する偏見の研究(1)—SCRによるアプローチ—第11回日本感性工学会大会, 第11回日本感性工学会大会予稿集 (CD-ROM), 3G1-4\_J11-090629-37. pdf, 2009.
5. 大久保重孝, 井出野尚, 玉利祐樹, 高橋英彦, 竹村和久 生理指標を用いた精神疾患に対する偏見の研究(2)—サーモグラフィーによるアプローチ—第11回日本感性工学会大会, 第11回日本感性工学会大会予稿集 (CD-ROM), 3G1-5\_J11-090629-39. pdf, 2009.

#### 文部科学省科学研究費補助金

奨励研究 (A)

平成5年度 消費者の購買意思決定を規定する状況因子の分析とその心理モデルの作成 研究代表者 (個人研究)



平成6年度 「あいまい」な情報下での意思決定過程の分析とその心理モデルの作成 研究代表者（個人研究）

平成7年度 意思決定過程における心的構成効果の心理計量モデルの作成とその妥当性研究 研究代表者（個人研究）

平成8年度 相談による共同意思決定の研究 研究代表者（個人研究）

平成9年-10年度 判断と意思決定の状況依存性の解明とその心理計量モデルの作成 研究代表者（個人研究）

基盤研究（c）

平成11年-12年度 状況依存的な判断と意思決定の実験研究とその計量モデル・数理モデル・表現定理の解明 研究代表者

平成13年-14年度 社会的環境における状況依存的な判断と意思決定プロセスの研究 研究代表者

平成15年度-16年度 経済現象の意思決定分析 研究代表者

基盤研究（B）

平成19年度—22年度 社会的判断の新しい分析手法の開発と社会政策への応用 研究代表者

萌芽研究

平成18年度—20年度 新しい描画調査の開発とその画像解析による社会心理学的応用 研究代表者

特定領域研究

平成19年度—24年度 実験社会科学（意思決定過程マイクロ分析班班長）

挑戦的萌芽研究

平成21年度—23年度 描画と言語プロトコルの統一的分析法の開発とそれに基づく臨床社会心理学的研究 研究代表者

以 上